# あんな)大地 ちいき)を潤す **浦流となって**

カン

お

第23回全国ボランティアフェスティバルぎふに参加

を超える参加者で「さわやか」から高原・貞谷が初めて参加しました。。 イアフェスティバルぎふ』が開催されました。全国各地から一九〇〇名場で社会福祉法人全国社会福祉協議会主催の『第二十三回全国ボランテ、九月二十七日(土)二十八日(日)に岐阜県岐阜市の長良川国際会議

確認しましょう。 地 であ が果たした役割と教訓 多くの地域でボランティ ら三年半、 大震災· 確信を持って、 域 いっても 貢献に繋 被災地をはじる福島原発事故が 地 0 小がって 域を動 初 尾良 一人の ま いく事 事 た カコ 英 を 故東 l 実 再 T 8 日 志 行 カュ

がありました。 を期待していま 皆さんの活発な議 す 論と交流 と挨 拶

がやり市 交換や情報交換をする事課題を共有し、熱心な意 の斎藤十郎会長は「この続いて全国社会福祉協議 会で課題に取り組み、 いって、 玉 ボランティ の協 活 働  $\mathcal{O}$ 動 が輪が活 ま に見た む広動 大会

ょ

拶がありました。 事を期待してい 次に塩崎泰久厚生 、ます」 一労働 と挨 鈴大臣

働大臣表彰があり、引き続ランティア功労者の厚生労岐阜県知事の来賓挨拶とボ 俊彦社会援護局長と古田なの代理の厚生労働省の鈴-き記念講演に入りました。 師に岐阜県白川 事の来賓挨拶とボ援護局長と古田肇 財 L 村の倉嘉 産 て 一(た

ありました。 からもの) 』と題 宏教育長を迎えて『未来に つなぐ白川びとの 話

大正十三年に

### 未来の )財産]

## 過去の財産』

川郷萩町集落にあります。

切妻合掌造りの多く

は

白

五棟に減少しています。

あると思いがなければ なけ 倉氏 れは ばいけない財産に私達には守り ばいけない 、ます。 繋 が を結成し、合掌家電で『三を結成し、合掌を当りを守る会』

事 それは 未来の財産と 共に村を造 『未来の は っ子て供 と 過

統や文化の事です。 とは先人達が守り いという思いと過 去 通 0) L た財ほ達 伝 産 しの

月に重要伝統建 区として平 白 川村は昭 成 和 物 五. + 群 保 存年 地九

の集落として日川郷五箇山 が存在しており、 切妻合掌造り 録されました。 白川村には 産に登

切妻合掌造り

世界遺

火災等によって現在、七は三○○棟ありましたが

きません。感謝であることは方であることは方

ることは忘

+ ま

ないと思 にのり を さ に繋いでいかなけれので、私達は共にな 続 作な けて ij ` 1 住民がしつの住民憲章 います。 、現在に なければればればかの。 

お蔭様だ』と言える心

だ

『感謝の心』・

『敬う心』

## 子供を育み

## 未来のステージ

国ボラン 体となり、 受員会がに現地推 - アフェ テ 全主進 ス 組 を育み、 んでいます。 平

り出してい 貫教育を実施し、子 成二十三年に小・ 未来の き したいと 取りへ 供中 達校

とではないかと思います。 『生きている』という事は人に何かしてもらうこと、 それを返していくというこ 考えています。 また『生きる』という は

事未 だけではなくその気持ちを造り等の伝統文化を守る事 が一番-り等の伝統文化を守る事そして私達が、切妻合掌 番大切な事だと 供達に繋い で <

1. 倉第 中村定 病 院

敏

名

營理事

長

7

逝

立者であり、 名 七 病 日 内院の創 月二十 事

ŧ

のスタイルで「さわやか」

1

つもやさし

病院内でお会いした

い笑顔といれ会いした時

つは

さんどうですか?と声

を

か

け

てくださいました。

患者さんの為、

自分

0

労 理

為に

ました。 敏先生が永眠さ

小倉地区でどこに事務 小倉事業所を立ち上げる際に、 友会で話し合いました。 置くかで当時の北九州 今から十七年前「さわやか」 市所を

6

れたと伺っておりま

す。

今

も先生はじめ小倉第一の「さわやか」がも スタッフの皆様の

があ

で陰病る

も愛情いっぱいに接してお患者さんにも職員の方々に

愛情いっぱいに接して

力を惜しまず、妥協をしない、 想とする病院作りの

く事になり、平成九年病院の一室を貸してお話していただき、小会談に行ったところ、は 月十五日 話していただき、小倉第一談に行ったところ、快く承そして中村定敏先生に相 9、平成九年十二室を貸していただ 開 所 す る 事 が で

> し と

ます。

-村先

5先生ありがよったお祈りいた

いたし れる事

ま はお \_

とたす

ま

ェスティバ ルとは

委 催

ティバル」に イ って 発 展 現 在

た未来に繋いでいくに

第23回

全国ボランティア

ります。

その後、 玉

平 成 持

から

各

地

0

ち

口 几 年 ŋ

開 は

フェスティバルぎふ

ィアのつどい」にさかのぼ開催された「全国ボランティバルは、昭和五十二年に

全国

ボランティアフェステ

玉

ボランテ

イア

フ

らない」・

『貸さない』・『壊合掌家屋を『売 『貸さない』

飯尾良英実行委員長

と話 されました。 面に

経済的困窮の広がりと孤独死

その内容としては

現在

きこもり等の様々な問題

7

ま かす。

#### さわやか

### みんなで寄れば 〜お悩み解決のヒントを私たちの活動から探ろう!〜 ″文殊 0 知

恵

ループに分かれてワー心のあるテーマについ

に分かれて、『支えあい』・阜都ホテルなど四つの会場 日 テルなど四つの会場目は午前九時より岐

九の分科会がありました。 くり』の四つテーマで二十 『防災・減災』・『まちづ 『ボランティア・福祉教育』・

ろう!~』の分科会に参加ントを私たちの活動から探の別恵。 ~お悩み解決のヒの『みんなで寄れば "文殊の『みんなで寄れば "文殊 しました。 今回は、「広がれボラン

は福 祉大学 今回 コーディネー 0) 原 趣旨は 田正 ロは活動を ・ 樹学長補: ター 活動  $\mathcal{O}$ 日 し佐本

題者が発表し、その中で関



共通し、そこから全国のていく中での問題や悩み と話されました。 でも解決策を探す 間と共に議論し 四つのテーマにつ 採す事です」がら全国の仲間題や悩みを 11 · て発

がありました。
の菊池まゆみ常務理事の話の菊池まゆみ常務理事の話談所」の三輪憲功代表と秋談の三輪憲功代表と秋いません。 F川一宏教授、ゲスーテル学院大学学事 が出来る仕組みづくりが不れらが地域という場で協働動者による個々の実績とそ解決を図る為には様々な活 が終了しました。 績について話され、 た新しい協働のあり方や実地域の明るい将来を見据え 可欠です。それらを結集し、 終了しました。 問 題 に 向き合 い、その 全体会

ーにルーテと題して、 顧問の市川一

力』の結集による新たな協働」

コーディネー

第一部「『知力』と『地

清

流

トーク・セッシ

(表面よりつづく)

流を深め、一日目 いお国 は終了しました。 ての話をして交 その後の交流会では、 全

分科会の様子 2 関わる人が少ない ィアが集まるが、継続的 携やつながりができない 入ってこない 1 ョップを行ないました。 [テーマ] 単発の活動にはボランテ 他団体やグループとの 新しい仲間やメンバー

めを発表されました。 はじめパネリストに各部会 ター 午 後からは、コーディネ に 飯尾実行委員長を

る事の恐れ、自ら踏み出す けない事は繋がる事や関わ は「支え合い部会では今、 が出来て幸せだけど、良いた二日間にかけて出会う事事の恐れかもしれない、ま そのような滴がやがて世界 それぞれが一歩を踏み出 を潤してくれるようになれ く今日までと同様に元気に 話や会えた喜びだけではな ていきたいと考えています。 初めに大井智香子部会長 います」と話さ

口 [のボランティア・ 続いて西田松代部会長は「今 福 祉

可能という現場地域等の共同に

体の持続が

'能という現状が掲げら

高れ不

ちづくり部会の課題は、街・

ており、

人口減少や少子

4 度差ができ、 にずれがある メンバー間の活動 思いや方 への 向

- クシ 、てグ

1= 連 が 対しての解決策や工夫につや悩みを出し合い、それに 方からアドバイスをいただき いて話し合った後、 ①とテーマ④に参加しました。 分科会は終了しました。 今回はその 中からテー 講 師

「想いの結集!岐阜から広げる清流トーク!清流トーク・セッション第二部

〜地域を包む点と面のダブルアプローチ〜」 って、希望と夢を膨らませって、希望と夢を膨らませだ事を今後、一人一人の心だ事を学びました。今日学ん くり、ボランティアの支援、 育の分科会ではきっかけ ていきたいと思います」と ボランティアとしての心 話されました。

思います」と話されました。 の人材育成が急務な事だと ました。またあらゆる世代 意識・知識・技識を確認し る防災・減災の常識として、 減災では三つの『識』によ の部会のテーマでもある防災・ 次に岩井慶次部会長は「こ 次に原美智子部会長は「ま

めな 等があります。 孤 4 虐 待、 自 殺、

11

ľ

えで私達に何が出来るのかに変え、課題を認識したう捉えずにピンチをチャンス と話されました。 を考えていきたいと思います」

## 自分達と地域との

 $\mathcal{O}$ 

て地 呼び掛けてきました。 会では、 最 域の力を結集する事 後に飯尾氏は 地域の課題に 関係を見直そう 「この . 対 し を 大

高めていく事をこれから始しい、また連携して効果を地域との関係を見直してほこの大会を機に自分達と と話があり、 めていこうと思っています」 高 し地 しました。 全大会が 終了

す 島県の実行委員は「 と挨拶がありました。 かして頂きたいと思い ティア活動や市民活動に 入り、初めに すので、ぜひ参加されて下十一月に福島県で開催しまり場の実行委員は「来年のまた次回開催県である福 ティア活動や市民活動に活んだ事をこれからのボラン入り、初めに「二日間で学人り、初めに「二日間で学にないとのである。 お待ちしております」 、ます」

三時四十分に閉幕しました。 は と挨拶がありました。 咲く』を大合唱し 最後に参加者全員で 午 後花